

「高度経済成長」期における森林組合の経営分析

九州大学農学部 笠原義人

1. 課題

日本経済の「高度成長」の中で、森林組合は民有林生産の担い手として政策的に据えられ、その経営は60年代後半から70年代初頭にかけて、かつてない展開を遂げつつある。そこで、以下では森林組合の経営分析から、その経営がどのように展開しつつあるかを考察する。

2. 分析

1) 事業部門別損益構成の推移では、指導・販売部門の低下、利用部門の増加が昭和39年以降見られるがとくにその傾向は43~45年にかけて著しい。また部門別粗利益率も利用事業は高めてきている。

2) 比較貸借対照表より財務の変化を見ると、全体として、60年代後半の変化は著しい。昭和38年~43年

の5年間の資産増は32年~37年の5年間の4.7倍に達している。その増加は長期・短期の借入金に依存しており、38年から5年間の資産(=負債・資本)増の49%を占めている。一方では、自己資本の構成比は低下している(表一1)。

3) 当期純損益が赤字となる組合の比率は60年代後半に入ると減少しているが、赤字組合の1組合平均損失額は毎年増加しており、とくに43年以降はその額が大きくなっている。

4) 福岡県下の森林組合の階層性を含めた経営分析を中心に、具体的に考察してみよう。当期総資本利益率は林構事業を行なったA₁、A₃組合および他県の優良組合は、昭和39年~42年にかけて上昇し、その後やや低下するが、45年には上向、あるいはそのまま高水準にある。それに対してC、E層は60年代を通じて停滞的あるいはその変動が激しく不安定である。自己資本構

表一1 比較貸借対照表

資 産		金 額		負 債 ・ 資 本		金 額	
		百 万 円, (%)				百 万 円, (%)	
科 目		S37-32	S43-38	科 目		S37-32	S43-38
流動資産	売掛金	872	2,223	流動負債	買掛金	486	1,429
	たな卸資産	970	2,235		短期借入金	2,123	6,319
	その他の	2,747	8,516		その他	2,523	4,973
	小計	4,589 (30.7)	12,974 (18.5)		小計	5,132 (34.3)	12,721 (18.2)
固定資産	有形固定資産	1,106	2,834	固定負債	長期借入金	872	27,944
	長期貸付金	826	26,887		農林漁業資金借入金	7,318	25,701
	農林漁業資金貸付金	6,262	25,226		その他	396	913
	系統出資金	227	421		小計	8,586 (57.4)	54,558 (78.1)
	その他の	1,694	1,233	資本	払込済出資金	1,099	2,241
小計	10,115 (67.7)	56,601 (81.0)	その他	133	283		
当期末処理欠損金		245 (1.6)	228 (0.3)	小計		1,232 (8.2)	2,524 (3.6)
合 計		14,950 (100.0)	69,803 (100.0)	合 計		14,950 (100.0)	69,803 (100.0)

資料：「森林組合統計」

成比の推移では、他県の優良組合は高水準にあるが、福岡県下についてはそれ程の階層性は見られない。しかし、傾向としてはA層が45年以降上向しているに対して、C、E層は低下ないし横ばいの状況である。優良組合の事例で明らかのように、自己資本の構成比が高い組合ほどその資本利益率も高く、自己資本の構成比が低く、しかも停滞的である組合ほど、経営が不安定であると言えよう（表-2）。

60年代の後半から、いままで経営体としては停滞的であった森林組合経営は、赤字組合の減少、資産の著しい増加、事業量の飛躍的拡大など、活発化してきた。しかし、その中であって、優良組合およびA₁、A₃組合にみられるように、43年、44年の低下を克服して上昇している組合とは逆に、林構事業のような政策的な助成もなく、不安定ないしは停滞的な経営を続けている組合も多々あり、その差は拡大する方向にあるといえよう。

3. 結 び

表-2 森 林 組 合 の 経 営 分 析

区分	森 林 組 合	昭38年度	39	40	41	42	43	44	45
当期 総資 本利 益率 %	A 1 黒木町	0.06	0.08	0.05	0.17	0.31	0.15	0.05	0.40
	A 2 星野村	0.27	0.07	0.04	0.47	0.36	0.21	0.11	0.07
	A 3 那珂川町	0.42	0.35	1.06	0.95	0.69	0.06	△ 0.56	1.14
	C 1 杷木町	0.02	0.01	△ 0.12	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02
	C 2 宝珠山村	0.22	0.15	0.02	0.04	0.03	0.01	0.02	0.04
	C 3 大平	1.06		△ 4.27	4.08	0.01	△ 0.05	△ 0.43	0.03
	E 1 篠栗町	0.90	△ 1.78	△ 6.65	△ 10.68	1.11	0.13	0.20	0.34
	E 2 二丈町	0.00	0.07	0.06	0.01	0.02	0.12	0.06	0.37
	E 3 勝山町	0.04	△ 0.10	0.01	0.01	△ 1.56	0.00	0.61	0.76
	北見市(北海道)	0.31	0.43	0.27	0.90	1.25	0.95	0.78	0.75
	竜山村(静岡)	0.33	0.62		0.98	1.59	0.95	0.05	0.62
	球磨村(熊本)	0.69	0.73	1.08	2.50	6.16	3.69	2.38	2.92
	全国平均		△ 0.10	△ 0.18	△ 0.05	0.16	0.11	0.20	0.11
自己 資本 構成 比 %	A 1 黒木町	3.8	3.9	3.7	3.3	3.2	3.0	5.4	6.7
	A 2 星野村	10.3	14.0	10.5	8.1	7.4	7.5	5.9	5.4
	A 3 那珂川町	5.2	4.8	5.3	4.6	3.9	4.5	4.2	5.5
	C 1 杷木町	8.3	7.1	5.2	2.9	2.5	2.9	2.4	2.2
	C 2 宝珠山村	5.0	2.4	1.5	1.0	2.7	2.0	2.0	2.0
	C 3 大平	29.9	29.1	28.4	29.6	15.6	9.5	6.6	6.7
	E 1 篠栗町	8.8	10.5	4.4	8.9	7.8	7.1	7.0	7.3
	E 2 二丈町	6.0	3.0	2.6	2.6	2.6	2.9	3.2	2.9
	E 3 勝山町	2.2		0.9	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7
	北見市	12.1	14.5	17.0	14.0	11.7	10.6	10.8	12.2
	竜山村	4.6	7.6	—	13.8	12.7	9.4	9.3	11.5
	球磨村	21.7	23.8	22.3	28.9	26.4	29.7	24.0	24.9
	全国平均		8.7	7.9	7.1	6.4	5.9	5.5	5.5

注) 階層区分は福岡県の森林組合(46組合)を5階層に区分した。Aは専従職員5人以上、総事業量5億円以上。Cは1~3人で、1億円以上。Eは専従職員のいない組合。

資料) 各森林組合の「業務報告書」、福岡県：「福岡県森林組合の概況」および林野庁：「森林組合統計」